

“ 管理者の一声で死角を認識 ”

～トラックの 見えない死角に 要注意～

貨物車の運転席には多くの死角があります。運転に慣れるほど、死角が気にならなくなるようですが、非常に危険な状態です。

運行管理に当たる皆さんの、死角に対する注意の“一声”が、安全運転の徹底に結びつきますので、ご配慮をお願いします。

<死角の自覚と注意の“一声”>

左側後方の死角～左折時の巻き込み事故

サイドミラーで見える範囲以外は、全て死角

特に左折時は、早めに合図を出し、左側端にできる限り車を寄せて最徐行しながら、安全確認を徹底して左折する。

後方の死角～構内でのバック事故

箱型トラックの真後ろは、全て死角

後退する際は、一旦下車して後方の死角を確認する。

バックモニター装備車でも、機器のみに頼らず、下車してしっかり安全確認を行う。

ピラーの死角～右折時の横断歩行者、自転車との衝突

フロントピラーは意外と大きな死角

できる限り顔や体を動かすなどして視界を確保し、ピラーの陰の二輪車や歩行者等の有無を確認する。

直前の死角～発進時の追突事故

フロント直前の車両を見落とさない

前方の信号や大きな車両を見て発進しがちなため、直前の小型車両等を見落としやすい。

発進時は、必ず直前の確認を確認するくせをつける。